**第１６回登別市市民自治推進委員会　ぬくもり部会議事録**

（敬称略）

◆ 開催日時：平成３０年　８月２７日（月）　１８時００分～

◆ 開催場所：登別市役所２階　第２委員会室

◆ 出席部会員：部会長　 田渕　純勝

副部会長　雨洗　康江

　　　　 　　部会員　 今　順子

鎌田　和子

岩浅　眞純

佐藤　画美

　　　　　　　　　　　　 梅田　秀人（協働推進庁内委員会部会長）

【保健福祉部次長】

平田　雅樹（協働推進庁内委員会副部会長）

【保健福祉部子育てグループ総括主幹】

◆ 欠席部会員：　　　　　なし

◆ 事　務　局：　　　　　笠井　康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

　　　　　　　　　　　　 塚崎　翔太【市民生活部市民協働グループ主任】

◆ 議　　　題：今後の部会における取組内容について

≪事務局≫

　今日の議題は、前回に引き続き、これからぬくもり部会として取り組んでいくテーマを決めることになりますが、その前に前回の部会でいくつか質問がありましたので、それに対する回答をお話させてください。

　１つ目は特定健診などについて、休日も含め話を聞ける場が欲しいというお話がありました。皆様にお配りしている資料に市職員出前フリートークのチラシがあります。この制度を利用すると、「特定健診で生活習慣病予防」などのおすすめメニューのほか、任意のテーマで話を聞くことができます。担当グループとの調整次第で日曜日なども対応可能です。

　２つ目は、第３期基本計画の実施計画の進捗を聞く場が欲しいとのご意見がありましたが、これから市民自治推進委員会の全体会議もしくは部会長・副部会長会議で説明される予定となっていますので、その場でお聞きいただければと思います。

　３つ目は、実施計画の進捗について、各事業を担当する主査・主幹から話を聞きたいとのご意見がありましたが、具体的に話を聞きたい事業がありましたら、各担当グループに来てもらって、この場で説明してもらうことができます。配布資料の事業一覧をご参考にしてください。なお、一覧に載っていない事業についても対応可能です。

　以上３点、連絡事項でした。

≪部会員≫

　特定健診のお話を聞ける場について、先日お願いをした際には、土曜日、日曜日を外してほしいと言われました。

≪庁内委員≫

　出前フリートークは土日だから完全にだめだということはないと思います。他に行事が入っていて土日に対応できないということはありますが、基本的には土日でも、お互いの都合が合えば、行けるしくみになっています。広報が窓口になっていて、申請者と担当グループとの調整を行います。

≪部会長≫

　私も町内会で研修会というかたちで行政の方々に来ていただいていますが、基本的には土日関係なしに、調整がつけば来ていただいています。たまたまタイミングが悪いと来られないこともありますが、事前に調整すれば来ていただけると思います。

　この件については、ご理解いただけましたでしょうか。

≪部会員≫

　はい。

≪部会長≫

　実施計画の進捗について、数値的な目標は資料で分かりますが、その過程や具体的な内容について、実際に行政の担当者と意見交換をしたいと思っていますが、皆さんいかがですか。

≪事務局≫

　皆さんには第３期基本計画を作っていただいているので、その進行具合についてお知らせする必要があります。そこで去年、全体会議の中で企画調整グループから第３期基本計画の全体的な話をしました。

　ただ、どうしても企画調整グループからは計画の全体的な話になってしまうので、今、部会長が言われたとおり、ぬくもり部会の中で個別具体的な話を聞きたいというのであれば、その担当に来てもらって話を聞くことは可能です。

今年度の取り組みのテーマについて

≪事務局≫

　ここから今年度のテーマについて決めていきたいと思いますが、それに先立ちまして、市民自治推進委員会の位置づけを改めて確認したいと思います。

　市民自治推進委員会は、行政で取り組んでいない部分について、市民の力でまちづくりを行っていく組織ですので、行政に要望を出すのもひとつの手段ですが、それ以外にも自分達で取り組めることを考えて実際にやっていこうというスタンスで話し合いが進んで行けばいいと思います。

　例えば育み部会では部会員から公園の活用があまり進んでいないのではないかとの課題が示され、それに対して１つの公園を特例でボールが使えるようにして周知を行い、どのくらい活用されるのか検証することとし、部会員自らチラシを作り、各学校に配布しています。

　もう一つの例として、産業躍動部会では、現在あまり活用されていない市内の歴史的背景を持った文物を活用した観光のコースをつくって参加者を募集し、実際にツアーを催行してそれを旅行会社に提案するという取り組みを行っています。

　ぬくもり部会では、福祉方面の分野での課題や、それを解決するための具体的な取り組みが出てくることが望ましいと思います。

≪部会員≫

　今何が一番課題かということを考えると、高齢者です。介護や支援を必要としない自立した高齢者をいかにして作っていくかが一番の課題。町内会などが色々な取り組みをしていると思いますが、その中でもサロンを作ったりしている、成功例について聞いてみたいです。

　いろいろなところに出てくる方は心配ないのですが、外へ出ない方へどう手を差し伸べるかが気になります。

≪部会長≫

　ほかに、テーマの案はありますか。

≪部会員≫

　高齢者にばかり焦点が当たり、障がい者への関心が弱いように感じています。高齢者への対策の中に障がい者も含む、とは言われますが、やはり高齢者と障がい者は違います。

≪部会員≫

　障がい者・高齢者に子どもを加えると、３者に共通するのは弱いということ。強いものが弱いものの面倒を見るのは当然ですが、面倒を見てもらうのが当たり前となってはいけません。私たちの施設では、ここ８年の間、雇用している障がい者９人を一般就労に送り出しています。一般就労になると税金を払っているので、一人前です。そのようにして自立心を持たせなくてはいけないし、障がい者を社会資源として有効利用しなくてはいけません。

≪部会員≫

　私たちの町内会の副会長は８８歳で、文書事務が得意なので総会の資料や回覧の作成などの仕事を引き受けてくれています。ほかにも多くの高齢の方が運営に参加してくれ、それぞれができることをやってくれています。仕事があった方が、生きがいがあり、暮らしに張り合いがあるようです。病気をする人もあまりいません。責任感の強い人は無理をしがちなので気を付ける必要はありますが。

≪部会長≫

　女性は自ら社会に参加する動きがあります。以前居酒屋で、８０歳前後の女性が集まり、世界情勢について話し合っているのを見ました。

一方、男性はあまりそういった動きが見られません。高齢男性をいかに社会に引き込むかが課題です。

≪部会員≫

　テレビでも７０代、８０代の女性が経営する食堂が取り上げられたことがありますが、こういった取り組みが登別にはないですよね。

≪部会長≫

　その食堂のお客さんは男女どちらが多いのでしょうか。

≪部会員≫

　女性が多かったように思います。

≪部会長≫

　やはり女性は自発的によく集まりますが、男性は外に出ません。

≪部会員≫

　男性は独居になってから食事を作ることにみじめさを感じるようです。女性はずっと料理をしてきていますが、男性には抵抗があり、特に茶碗洗いには屈辱を感じるようです。

≪部会員≫

　男子厨房に入るべからずという昔の教育の影響もありますね。

≪部会長≫

　男性向けの料理教室を開催しても、単身者はあまり参加しません。

≪部会員≫

　配偶者を亡くしたときのショックは女性よりも男性の方が大きいようです。その点で女性は強い。

≪部会長≫

　高齢者施策の中でも、特に配偶者を失って気落ちしている方の気持ちを別な方向に向ける施策というのはないのでしょうか。

≪庁内委員≫

　サロンやデイサービスがあります。ただ男性はどちらかというと一人の方がいいという方が多く、利用は少ないですが。

≪部会員≫

　本当は行きたいのだと思います。

≪庁内委員≫

　カラオケなどには抵抗があっても、運動機能を回復させる訓練となると出てくるので、何かしら方策はあるかもしれません。

≪部会員≫

　デイサービスも嫌だ嫌だと言いながら、行き始めると楽しくなるようです。

≪部会長≫

　きっかけをどう作ってあげるか、ですね。

≪部会員≫

　しょうがないから行くか、となるような、プライドを傷つけないような形で向かわせる必要がありますね。

≪部会員≫

　私たちの町内会では、サロン開催時には男性を車で迎えに行っています。すると１，２回拒否したのち、そうか？と言って参加するようになります。

≪部会長≫

　子育ての観点からはご意見ありますか？

≪部会員≫

　近年は共働きのお母さんが多く家庭教育が難しくなっており、幼稚園や保育園での支援が必要なケースが増えています。ただ、幼稚園等では温かい家庭の感覚を与えるのは難しいので、高齢者施設を訪問する機会を設けています。すると子どもたちから、次回行ったときにはこういうふうにしてあげたい、という思いやりの気持ちが自然と言葉として出てくるようになります。ただ、この取り組みを継続するのは難しい部分があります。

　また、食生活に関して、冷凍食品を使うことが多い、手の込んだ料理の作り方が分からないという声が聞かれます。料理教室などで新しい西洋料理は学ぶ機会があっても、昔ながらの和食については、保護者世代の方は、どこでそういうのを習ったらよいのか分かりません。スマートフォンでレシピは調べられますが、上の世代の人と触れ合いながら教えてもらうことで、そこにぬくもりとか絆が生まれます。そういうのも必要な時代ではないかと思います。若い人はしがらみを嫌がってインターネットを通して知り合いを作ったりしますが、そういう機会があって参加すると、スマートフォンでは得られない心のふれあいや交流ができます。

≪部会長≫

　行政側からアイディアはありますか？

≪庁内委員≫

　未就学児と高齢者との交流について、現場を見ると、訪問先のおじいちゃんが涙を流して喜んでいることがあるので、こういった取り組みは継続できればと思います。ただ、先ほどお話が出たような親世代と高齢者、または親世代と障がい者などの交流の機会は現状あまりありませんので、これも実施できれば良いです。居場所や、高齢者と障がい者、障がい者と子どもなど人と人との交流が作れれば良いですね。

≪庁内委員≫

　高齢男性が社会に出てこないということについてですが、確かにデイサービス等には出てきませんが、町内会などの社会的な団体を見ると男性の参加が圧倒的に多いです。教育の影響や、それまでの人生での役割や経験の影響があるのかもしれないと思いました。

≪部会長≫

　日本の生活風習の影響はあるでしょうね。それを改めるためには、子どもたちに働きかけていく必要があります。

　ここまで、皆さんそれぞれの立場からの、テーマを決める上でのポイントとなるお話は出揃ったかと思います。この後議事録を見ながら、各自取り組み内容を考えていただき、次回取り組み内容を決めていきたいと思います。

【次回以降について】

●今後の部会における取組内容について

●次回開催　９月２７日（木）　　→　　のち１０月１１日（木）に変更